

長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2022年第6週 2022年2月7日（月）～2022年2月13日（日） 2022年2月17日作成

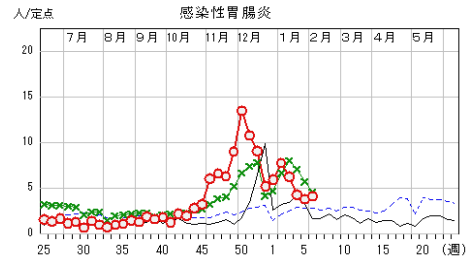
☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

（1） 感染性胃腸炎

第6週の報告数は181人で、前週より13人多く、定点当たりの報告数は4.11であった。

年齢別では、20歳以上（24人）、1歳（23人）、6歳（23人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（11.00）、五島保健所（7.25）、県央保健所（6.33）であった。

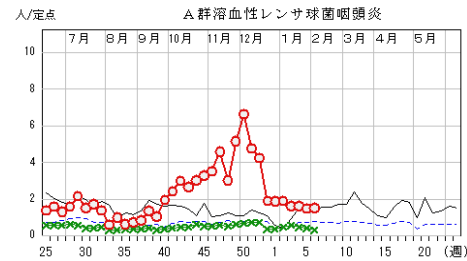


（2） A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第6週の報告数は67人で、前週より2人多く、定点当たりの報告数は1.52であった。

年齢別では、10～14歳（13人）、6歳（9人）、7歳（8人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（12.80）であった。

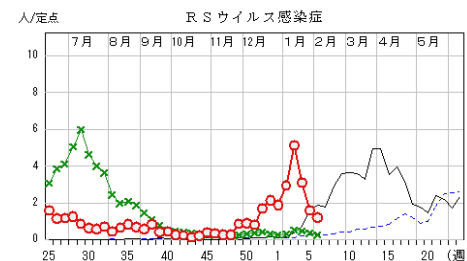


（3） RSウイルス感染症

第6週の報告数は53人で、前週より17人少なく、定点当たりの報告数は1.20であった。

年齢別では、1歳（24人）、1歳未満（15人）、2歳（7人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（7.67）、県央保健所（2.33）であった。



○ 当年(長崎県) — 前年(長崎県)
 × 当年(全国) - - 前年(全国)

☆上位3疾患の概要

【感染性胃腸炎】

第6週の報告数は181人で、前週より13人多く、定点当たりの報告数は4.11でした。地区別にみると県北地区（11.00）、五島地区（7.25）、県央地区（6.33）は他の地区より多くなっています。前週より増加していますので、今後も動向に注意しましょう。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスをはじめとするカリシウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。原因微生物のうち、ロタウイルスについてはすでにワクチンが認可されていますので、予防することが出来るウイルスです。特に乳幼児には、手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診させましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第6週の報告数は67人で、前週より2人多く、定点当たりの報告数は1.52でした。地区別にみると県南地区（12.80）は、警報開始基準値「8.0」を超えています。今後も動向に注意しましょう。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により、多くは1日から2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いやうがいを励行し、感染防止に努めましょう。

【RSウイルス感染症】

第6週の報告数は53人で、前週より17人少なく、定点当たりの報告数は1.20でした。地区別にみると、県北地区（7.67）、県央地区（2.33）は他の地区より多くなっています。多くの地区で前週より減少していますが、今後も予防に努めましょう。

RSウイルス感染症は、発熱や鼻水が主な症状の呼吸器感染症で、通常は軽症で済みますが、一部は重い咳が出て呼吸困難や肺炎になることもあります。ワクチンはなく、接触感染や飛沫感染で一度かかっても再感染し、大人も感染することがあります。乳幼児、特に6ヶ月未満の乳幼児が本ウイルスに罹患すると、呼吸困難を伴う重篤な細気管支炎や肺炎、脳症を発症することがありますので、心臓などに基礎疾患のある小児では特に注意が必要です。乳幼児には、手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診させましょう。

☆トピックス：感染性胃腸炎に注意しましょう！

感染性胃腸炎の報告数は、2022年は第2週をピークに減少傾向にありましたが、第6週の定点当たり報告数は4.11で、前週よりわずかに増加しました。ほとんどの地区で減少していますが、五島および上五島地区では、患者数が前週の約2倍に増加しています。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスをはじめとするカリシウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。当センターに12月以降に搬入された感染性胃腸炎の検体から、ノロウイルスGⅡ.2およびGⅡ.4が検出されています。

例年冬期に患者数が増加するのがノロウイルスによる胃腸炎です。ノロウイルスの潜伏期間は1～2日で症状の持続期間は数時間～数日です。症状は他の胃腸炎ウイルスと同様に嘔気、嘔吐、下痢が主で、腹痛や発熱を認める場合もあります。乳幼児から成人に至るあらゆる年齢に感染します。

また、ノロウイルスは食中毒の原因としても検出されるウイルスです。ノロウイルスに感染した患者の手指から食品を介して感染します。

予防には手洗いが重要です。手洗いを励行し、体調管理を行い、積極的な感染防止に努めましょう。

長崎県における感染性胃腸炎報告数の推移

